

令和4年度岐阜県芸術文化顕彰受賞者

いとう せんゆう
伊藤 仙游 書家

(敬称略)

- ・父伊藤天游氏（故人）に師事し、精力的な創作活動により、昭和56年には日展に初入選、その後も多数入選し、平成23・25年には日展特選を受賞、令和元年には日展審査員を務めた。
- ・日展会員、日本書芸院常務理事、中部日本書道会理事長、岐阜県書作家協会会長等を務め、高校生の書道パフォーマンスイベント「天下布書！」を開催するなど、後進育成や書の認知度の向上に尽力している。



うすい ちさと
臼井 千里 書家

- ・墨の濃淡や余白を生かした作品は、心の中にある「小宇宙」を表現し、「絵画のような書」と評され、国内はもとより海外において数多く個展を開催し、精力的に創作活動を行っている。
- ・岐阜県世界青年友の会の常務理事でもあり、書を通して、日本の文化や岐阜県の魅力を世界に広めることに尽力している。また、国際交流展に積極的に参加し、国内外で「書芸術」の紹介に努めている。



きげいじゅつぶようがくえん かやの木芸術舞踊学園

- ・中津川市に本部を置き、様々な児童舞踊を基盤として現代舞踊、バレエなどを取り入れた作品を創造し、子どもたちの豊かな感性や創造力、集中力などの人間性を育てている。
- ・令和4年全国舞踊コンクールの児童舞踊部において、文部科学大臣賞を受賞するなど、これまで多数の受賞歴がある。高い芸術性を誇り、県内を中心に幅広い活動を展開しており、本県の児童舞踊の向上に多大なる貢献を果たしている。



令和4年度岐阜県芸術文化顕彰受賞者

ひがし かつひろ
東 勝廣 一位一刀彫師

- ・50年以上の長きわたり、飛騨一位一刀彫の制作に従事し、一位一刀彫で最高峰とされる技法である立体透彫すかしぼりは、随一の腕前として全国的な評価を得ている。平成28年においては、「現代の名工」にも選ばれている。
- ・高山祭屋台や社寺彫刻の修理にも多く携わるなど、文化財の保存に多大な貢献を果たすとともに、伝統文化の継承者として、後継者の育成にも尽力している。



【特別賞】

かのみずかけおどりほぞんかい
寒水掛踊保存会

- ・寒水の掛踊は、寒水地区の白山神社の例祭において、世の平安や豊年満作を願い奉納されている。約300年間踊り継がれており、県の重要無形文化財に指定された際に保存会が結成され、総勢130人以上の役者割や祭礼用具の準備を行うなど、地元の民俗芸能を守っている。



- ・令和3年に国の重要無形民俗文化財に指定され、令和4年11月に、風流踊としてユネスコ無形文化遺産に登録された。

ぐじょう ほぞんかい
郡上おどり保存会

- ・大正11年に創立し、郡上の香り高い伝統文化として発展継承し、100周年をむかえた。おどり屋形では唄、太鼓、笛などによるお囃子でおどりを先導し、徹夜踊りを中心に7月中旬から9月上旬にかけて2か月におよぶ開催期間の郡上踊を支えている。

- ・郡上踊を後世に伝えるために、小中学校やジュニアクラブ、公民館講座や講習会等の指導をしたり、東京や京都など日本各地及び海外においても公演を行ったりするなど、普及振興に貢献している。令和4年11月に、風流踊としてユネスコ無形文化遺産に登録された。



令和4年度岐阜県芸術文化奨励受賞者

あおやま けいこ
青山 桂己 画家

- ・ボールペン細密画家として障がいがありながらも、熱心に制作活動している。カンヌ国際芸術祭で黄金の幸福賞を受賞するなど、海外での評価も高い。ボールペン一本で絵を描き上げる制作実演を行い、絵画の普及振興にも努めている。
- ・障がい者の芸術文化活動への振興に対する思いも深く、作品販売の売り上げから寄付などを行い、障がい者への理解と協力も行っている。



かめい まさや
亀井 聖矢 ピアニスト

- ・第88回日本音楽コンクールピアノ部門において第1位を受賞。令和4年にはフランスのロン＝ティボー国際音楽コンクールにおいて第1位を受賞し、海外での評価も高く、さらなる活躍が期待されるピアニストである。
- ・クララザールじゅうろく音楽堂（岐阜市）に自身のグランドピアノを寄贈したり、サラマンカホールでリサイタルを開いたりするなど、岐阜の音楽文化の向上にも貢献を果たしている。



たじま きよこ
田島 聖子 声楽家

- ・オーストリアのザルツブルク、ウィーンへの留学を経て、メゾソプラノ歌手としてドイツ歌曲に長年取り組み、定期的にリサイタルを重ね、声楽作品の魅力を届ける活動を精力的に行っている。また、清流の国ぎふ創作オペラ「花子」ではフラワー役で出演するなど、幅広い音楽活動を続けている。
- ・名古屋芸術大学、中部学院大学短期大学部、加納高等学校音楽科において、若い世代への育成指導にも尽力している。

